

シリーズ「日本の地熱発電所」

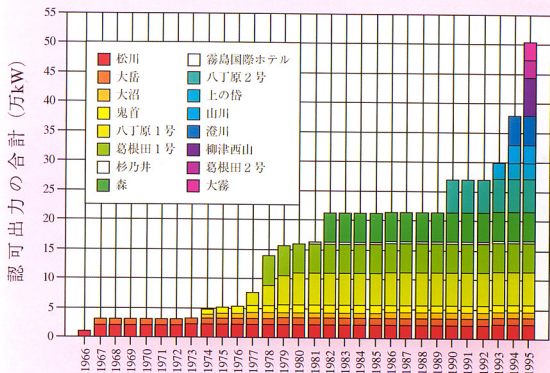
1966年10月に日本最初の地熱発電所（松川）が運開して今年で30年の歳月が経過しました。ここ数年新規の地熱発電所の運開が相次ぎ、現在稼働中もしくは建設・計画中の地熱発電所は17カ所、その総地熱発電出力は50万kWの大台を越えるに至りました。これは世界第5位の地熱発電設備容量です（日本地熱調査会（1995）「わが国の地熱発電の動向（1995年版）」参照；第1，2図）。

地熱発電はCO₂の環境への付加量が石油・石炭などの化石燃料に比べて小さく、純国産で、再生可能な自然エネルギーを利用しています。発電に適した高温の地熱資源は火山の周辺に偏在するため、大半の地熱発電所が自然環境に恵まれた場所に立地することになり、常に自然環境や景観と調和した発電所の建設および運営が求められています。

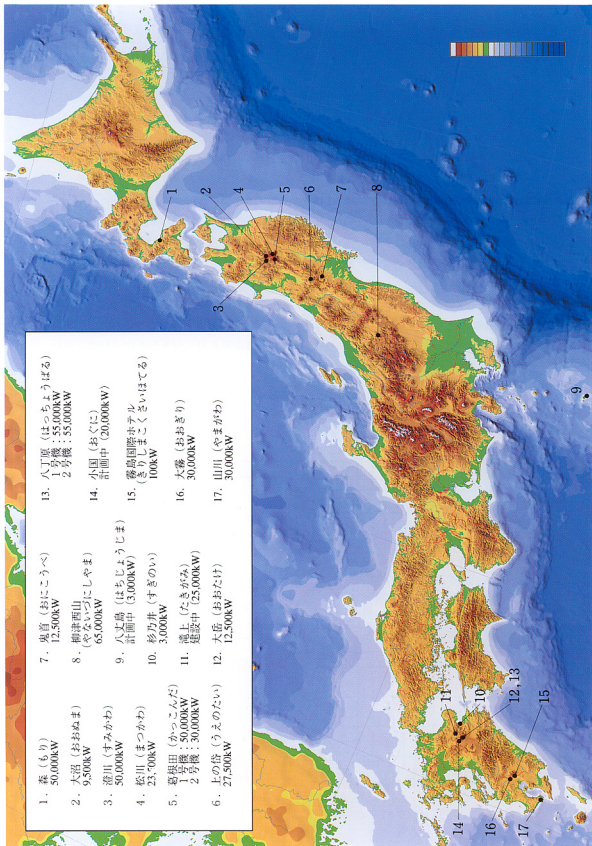
本シリーズでは、現在稼働中もしくは建設・計画中の日本の地熱発電所の風景を、関係者から提供していただいた写真をもとに順次に掲載し、「地熱発電所が自然景観の中でどの様に見えるか」を紹介し、本シリーズにより日本の地熱資源の利用の一端がご理解いただければ幸いです。

なお、各地熱発電所に関する代表的な参考文献はそれぞれの項で示しますが、開発経緯、地質概要、坑井・発電施設などの詳細については、日本地熱調査会（1985）「わが国の地熱発電所施設要覧（昭和60年版）」を参照してください。地熱発電所の貴重な写真および資料を快く提供していただいた電力会社および地熱開発関連会社の関係諸氏に対して御礼申し上げます。

〈地質調査所 地殻熱部 高橋正明・金原啓司〉



1. 日本の地熱発電所の認可出力の変遷。霧島国際ホテル地熱発電所は1983年に運開しています。



2. 日本の地熱発電所および地熱開発地点、日本および日本近海の地形の段彩陰影図は、情報解析室 村田泰章氏作成。